

事業番号

2021 - 府 - 20 - 0135

令和3年度行政事業レビューシート ( 内閣府 )

事業名	赤坂迎賓館参観経費			担当部局庁	迎賓館		作成責任者		
事業開始年度	平成28年度	事業終了 (予定) 年度	終了予定なし	担当課室	運営課		運営課長 上野秀一		
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)				関係する 計画、通知等	観光立国推進基本計画 観光ビジョン実現プログラム2020				
主要政策・施策	観光立国			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度 以内)	迎賓館は国公賓等の接遇のための施設としての性質上、非公開を原則とする一方、国公賓等が利用していない一定期間に限り、無料で特別に公開してきたところである。本事業は、平成28年度より、国有財産を有効に活用する観点から、現役の迎賓施設として歴史的・文化的価値を維持しつつ、その魅力を広く国民及び世界へ発信し、観光立国にも資することを目的に一般公開を有料で行っているものである。								
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	国賓等の接遇等に支障のない範囲で通年で一般公開を実施する。また、旅行者との意見交換等を通じニーズの把握を図りつつ、館の魅力を一層引き立て、より広く一般の興味・関心を引き起こす特別企画を検討実施する。迎賓館参観応募システムの経費については、令和4年度概算要求からデジタル庁にて予算計上。								
実施方法	直接実施、委託・請負								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	846	822	811	760	639		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
		計	846	822	811	760	639		
	執行額		687	838	467				
	執行率 (%)		81%	102%	58%				
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)		81%	102%	58%				
令和3・4年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和3年度当初予算	令和4年度要求	主な増減理由					
	迎賓施設業務庁費	745	623						
	諸謝金	16	16						
	委員等旅費	0	0						
	その他	▲1	0						
	計	760	639						
	成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 3 年度
参観者の満足度		一般公開の参観者のうち、アンケートで「やや不満、不満」と答えた人の割合	成果実績	%	1.9	2.6	1.8		-
			目標値	%	7	7	7	7	-
			達成度	%	100	100	100		-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	迎賓館赤坂離宮一般公開における参観者アンケート調査								
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								チェック	

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度 活動見込	4年度 活動見込
			活動実績	当初見込み	活動実績	当初見込み	活動実績
①参観者数 ※1日当たり		人	1,891	1,796	313		
		人	2,500	1,750	900	810	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	②外国人参観者数	人	10,844	11,106	1,041		
		人	8,000	12,000	2,800	1,400	
単位当たり コスト	算出根拠	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	3年度活動見込	
	参観費用/参観人数	円	1,346.3	1,681.3	7,880.3		
		計算式	/	686,615.23 /509,991	837,598.76 /498,171	467,692.10 /59,222	

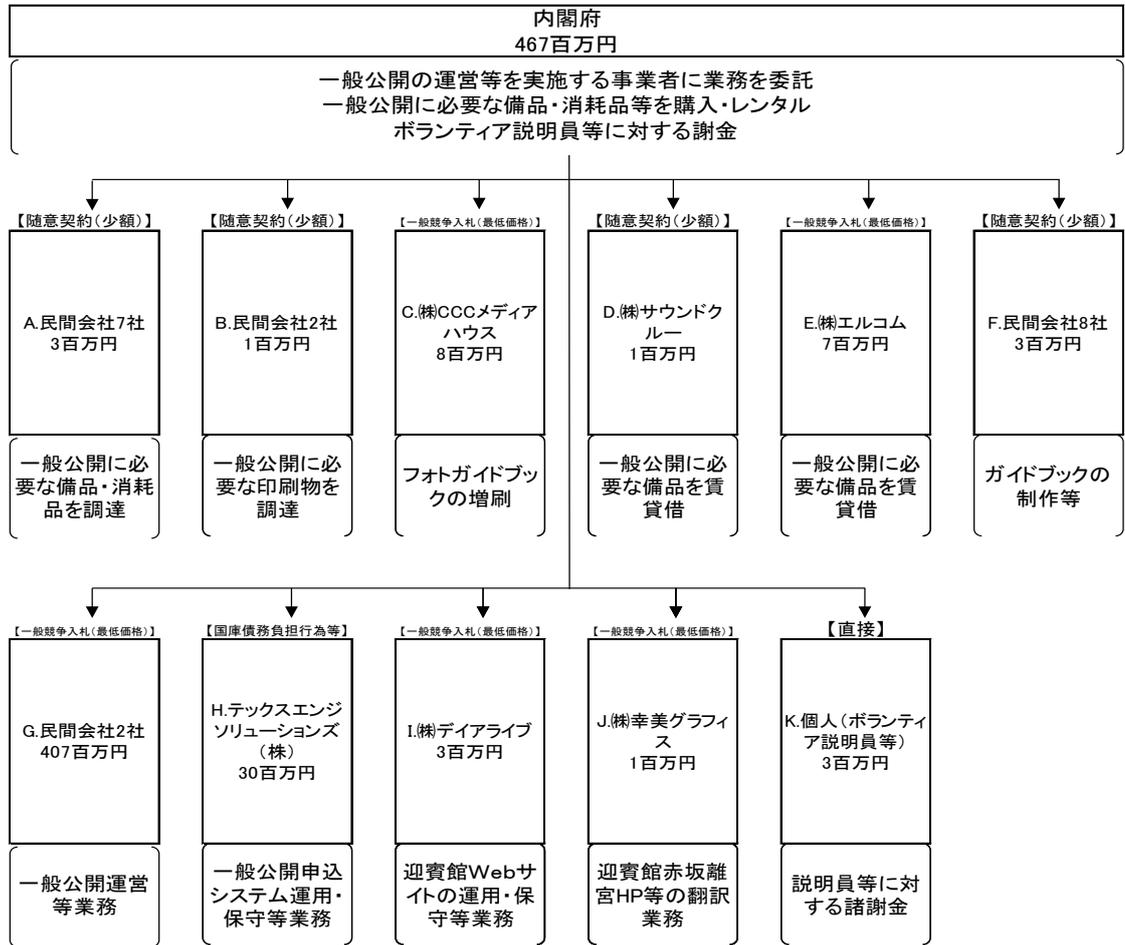
政策評価、 新経済・財政再生計画との関係	政策	18 迎賓施設の適切な運営							
	施策	56 迎賓施設の適切な運営							
	測定指標	定量的指標	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 年度	目標年度 年度	
		迎賓館赤坂離宮の一般公開における一日当たり参観者数の平均	実績値	人	1,891	1,796	313		
			目標値	人	2,220	1,891	1,796		
		定量的指標	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	中間目標 年度	目標年度 年度	
迎賓館赤坂離宮一般公開における参観者のうち、アンケートで「やや不満、不満」と答えた人の割合	実績値	%	1.9	2.6	1.8				
	目標値	%	10	10	10				

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の 必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	国有財産の有効活用や観光立国に資するなどの確に反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	国の迎賓施設であり、民間等に委ねることができない。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	観光立国推進基本計画(平成29年3月28日閣議決定)に定められた事業で必要かつ適切な事業であり、優先度の高い事業である。
事業の 効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	支出先の選定に当たっては、一般競争入札を実施しており、競争性に問題は無い。また令和2年度より入札参加をしやすくするため運営業務と警備業務を分割して調達したところ。令和3年度調達に当たっては、入札参加資格要件の緩和など更なる競争性の確保に努める。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	参観者から参観料を徴収しており、妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	△	令和2年度は仕様の見直し等により、参観費用は前年度を下回ったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により参観者数が減少したことから、単位当たりコストが上昇したものの。令和3年度の調達に当たっては、より徹底した運営等業務の人員配置の見直し等による経費削減に努める。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	真に必要なものに限定している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	運営等業務の人員配置を抜本的に見直しを行い、徹底した経費削減を図った。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で臨時休館を検討する際には、運営等事業者と綿密に連絡を取りながら人員手配のタイミングなどの調整を行い、極力キャンセル料が発生しないように努め、新たなコストの発生を抑えた。	

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	不満足の場合は1.8%であり、見合っている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	△	新型コロナウイルスの感染拡大により参観者数が減少する中、通常の参観とは異なる体験を含む特別ガイドツアーやピアノ演奏会といった特別企画を実施し、可能な限りの誘客を図った。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・改善結果	点検結果	運営等業務の人員配置について、徹底した効率化を図り経費の削減に努めるとともに、臨時休館による人員配置のキャンセル料を極力抑えた。さらに館内では参観者の感染防止対策を講じつつ、可能な限り通年で一般公開を実施するとともに、HPやSNSなどでの速やかな参観情報の提供、通常の参観とは異なる体験を含む特別ガイドツアーやピアノ演奏会などの特別企画の実施等により可能な限りの誘客を図った。(令和2年度の実績は、日数189日、参観者数約59,200人)	
	改善の方向性	引き続き、感染防止対策を徹底しつつ、可能な限り通年で一般公開を実施するとともに、季節等に応じた特別企画を計画的に実施する。また、コロナ後も見据え地方からの誘客に役立つコンテンツを作成するとともに、HP(6箇国語対応:日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、スペイン語)やSNSの活用を図り、迎賓館の魅力を国内外に発信するよう努める。運営等業務の人員配置を抜本的に見直すことなどにより、引き続き経費削減に努める。	
<b>外部有識者の所見</b>			
参観料を頂く形での一般公開は定着したものと思われるが、いわゆる「リピーター」が期待できるとは限らないことから、あらたな参観者の開拓に努めることが求められるものと思う。			
<b>行政事業レビュー推進チームの所見</b>			
現状通り	外部有識者の所見を踏まえ、新たな参加者開拓、及びリピーター獲得方法の検討をすること。また、平成28年度公開プロセスにおける指摘を踏まえ、効率的かつ効果的な参観手法の在り方、参観料の設定手法等の検討、中長期的な視点に立った新たな参観者層の確保等に向けた検討を継続して行うとともに、効果的・効率的な事業を実施し、不用額も踏まえ、執行実績を適切に概算要求に反映させること。		
<b>所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況</b>			
現状通り	新たな参観者開拓及びリピーターの増加に向けて、季節等に応じた特別企画を引き続き実施し、地方からの参観者を呼び込むためのコンテンツ作成により新たな参観者の獲得に努めるとともに、様々な試験的取組を通じ、効率的かつ効果的な参観手法のあり方の検討を行う。また、運営等業務について、人員の配置の見直し等により効果的・効率的な事業の実施に努める。		
<b>備考</b>			
【過去の公開プロセス評価結果】 平成28年度 0099 赤坂迎賓館参観経費 【評価結果】事業内容の一部改善 【コメント】迎賓館は新たに観光資源として位置付けられ、参観は賓客接遇という本来業務とは期間を区分けして対応することとなる。その際の参観者への対応と賓客の接遇機能との調整を十分に図りながら、これを進める必要がある。本件の参観経費についてはまだ過渡期ではあるが、従来の限定した公開時の対応や契約形態等にとらわれることなく、通年公開によって増えるコストの抑制について、参観料のレベルも含めて検討していく必要がある。 【対応状況】事業概要に述べたとおり、一般公開運営業務等を民間に委託するとともに、多言語対応を含め、参観者の満足度向上に努めた。この結果、平成28年度の実績は、公開日数187日、参観者数約765,000人となり、参観者の満足度も高い結果となった。コストの抑制については、施設への影響による維持管理費の増の見通しや参観者の満足度向上に必要な経費も勘案し、参観料のレベルも含めて検討していく。			
<b>関連する過去のレビューシートの事業番号</b>			
平成22年度	0136		
平成23年度	0156		
平成24年度	0150		
平成25年度	0106		
平成26年度	0104		
平成27年度	0111		
平成28年度	099		
平成29年度	0103		
平成30年度	0110		
令和元年度	内閣府 - 0120		
令和2年度	内閣府 - 0121		

※令和2年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
 (単位: 百万円)

**費目・用途**  
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)

A.稲木商工(株)			B.(株)ステージ		
費目	用途	金額(百万円)	費目	用途	金額(百万円)
物品購入費	アルコール消毒、フェイスシールド等	1	印刷製本費	ポスター及びフライヤー作成代	1
計		1	計		1
C.(株)CCCメディアハウス			D.(株)サウンドクルー		
費目	用途	金額(百万円)	費目	用途	金額(百万円)
印刷製本費	フォトガイドブックの印刷製本費	8	物品レンタル費	ミキシングコンソールのレンタル費	1
計		8	計		1
E.(株)エルコム			F.(株)CCCメディアハウス		
費目	用途	金額(百万円)	費目	用途	金額(百万円)
券売機等のレンタル費	券売機等のレンタル費	7	人件費	ガイドブック制作費	1
計		7	計		1
G.総合警備保障(株)			H.(株)テックスエンジニアソリューションズ		
費目	用途	金額(百万円)	費目	用途	金額(百万円)
人件費等	運営スタッフ、設営、撤去等経費	268	人件費	一般公開申込システム運用・保守等業務費	30
計		268	計		30

費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック





<b>費目・使途</b> (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	I.(株)ディアライブ			J.(株)美幸グラフィス		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	人件費	迎賓館Webサイトの運用・保守等業務	3	人件費	迎賓館赤坂離宮HP等の翻訳業務	1
	計		3	計		1
	K..ボランティア説明員等			L.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	諸謝金	ボランティア説明員に対する諸謝金	3			
	計		3	計		0

